

日時：2019年9月11日（金）19:00～21:00

場所：商工会館3階講座室

出席者：13名…篠原、山田、村井、内門、竹山、田中、中島、青木、中村、西村、山本、内山、南（記録担当）

1. コロナ禍の現状とまちづくりについて（全員）

①地域コミュニティ：

- ・3蜜対応のためコミセンがあまり使えず、多くの活動も停止状態が続いている。規制に伴って日常的な会合やイベントが開催しづらく、地域コミュニティが疎遠になってきている。
- ・特に行動範囲の限られる地域の高齢者へのコミセン対応が希薄となり、その孤立化が問題となっている。
- ・災害時の避難についても、過密を防ぐ定員制の制約が、大きな問題となる可能性が高い。

②仕事：

- ・オフィス業務中心の人は、自宅からのテレワークによる遠隔業務が増加し、出社は週に一回など働く環境が大きく変化している。
- ・本来、外回りの多い営業職などは苦慮しており、一方において、役所対応についてはやや緩さが感じられる。

③武蔵野市議会、役所

- ・市議会の傍聴は人数規制等があるものの、ネット配信も行われている。
- ・市議会では、緊急性の高いPCR検査対応や中小企業支援、住居確保支援などの体制整備や補正予算の確保等が迅速に進められているが、現場ではこれらの支援予算の利用率が上がらないといった制度上の問題も出ている（準備書類の煩雑イメージ、中大型店には金額不足、継続給付期間の限界、イベントや芸能関係などの再開見通しの無さ等々）。
- ・8月21日に都市マスの委員会があり、青木氏が傍聴した。

④法曹界

- ・裁判は遅れている（裁判官は自宅で書類仕事をするができるが、書記官は書類の外部持ち出しができない、といった理由などによる）
- ・弁護士は受託業務の種類によって行動パターンは多様であるが、全体的にはテレワークが進んでいる。

⑤大学等

- ・インターネットを用いた遠隔授業のみとなり、遠隔講義用資料の作成や、学生の理解状況の把握と出欠確認も兼ねた毎回のテストや課題レポートの作成、採点等で、教員の業務量は倍増している。
- ・学生も、遠隔講義対応（WiFi環境、カメラ付きパソコン等の整備）や、各授業におけるテストや課題レポートの増加、実家にいながらもアパート代を負担する等で経済的負担や勉強時間が増加してかなり大変な思いをしている。
- ・特に1年生は、同級生やサークル活動による人的ネットワークを作れないまま、アルバイトもできずに孤立した生活を送らざるを得ず、特に東京に出てきてしまった地方出身者などは、帰るに帰れず完全に孤立してしまっている。

2. 住宅マスタープラン関係の報告（篠原）

- ・第4次住宅マスタープランを令和元年8月から令和3年3月で策定中であり、6月は書面開催、8月に第2回委員会が開催された。
- ・住宅マスタープランは、市営住宅長寿命化計画の策定と並行して進められている。
- ・武蔵野市では、空き家対策はあまり大きな問題とはなっておらず、マンション管理にかかわる問題が、居住者の高齢化とも絡んで重要な検討課題となっている。
- ・マンションの現状については都が調査を行ったものの、内容的には十分とは言えないため市が独自により精度の高い調査を行うよう提案している。

3. 境山野緑地の再生に向けた課題（田中）

- ・4月から6月までは活動を休止せざるを得なかったが、活動は徐々に再開している。
- ・関西、中部地方から拡大していた「ナラ枯れ」被害が関東にも広がってきており、すでに井の頭公園や小金井公園において被害が発生し、独歩の森においても全枯れや半枯れのコナラが発生し、まだ枯れていなくてもフラス(カシノナガキクイムシ)が侵入するときに根本に落とす木くずが見つかっているコナラも多いため、早急な対応が求められている。
- ・「ナラ枯れ」の原因は、カシノナガキクイムシが媒介するカビ菌による伝染性の萎凋病であり、若木よりも大径木の被害が大きい。
- ・大径木の多い独歩の森も、放置すれば固有の二次林が壊滅する可能性があり、樹木更新により若木の育成を図りながらクヌギ、コナラの林相を維持していくことが検討すべき課題と考えられる。
- ・一方、二小ゾーンで実施した樹木更新については、3年間の検証を経たうえで独歩の森再生に向けた検討に結びつけることになっているが、実施後2年を経た現状においても、手法の妥当性は十分実証されつつある。
- ・そのため、今後の取り組みとしては、これまでの二小ゾーンでの検証成果を踏まえて、早めに独歩の森の部分的な更新の試行を順次進めていく手法が、リスクや抵抗感の少ない妥当な方法ではないかと考える。

4. 外環問題の取り組みの現状（西村）

- ・新型コロナウイルス対応により会議は延期され、特に作業部会委員が高齢化している点などから会議の休止状態が継続しており、今後の開催については都任せの状況となっている。
- ・9月28日（月）の16時～20時に、国土交通省関東地方整備局によるオープンハウスが吉祥寺南町コミセンで開催されるので、ぜひ参加していただきたい。

5. 西通りの会の状況（中島）

- ・高架下を横断し、武蔵野プレイスと観音院の間を通る都市計画道路（武3・4・27）に関する情報公開を市に対して行い、1次公開（110枚）は内容の9割が市民、市民団体からの意見書等であった。
- ・その後、都の同意も得て公開された2次公開（103枚）では、市民や市民団体が提出した意見書等に対して、市長決裁案件として、担当課がその都度検討して意見を付して市長に報告した記録や東京都に相談した記録が公開された。
- ・これにより、市が市民の意見に対して真摯に向き合っていること、意見が公文書

(職員が組織的に用いる文書)として適正に管理されていること、意思形成過程の情報開示という新しい課題が達成されていること等が確認でき、市に対する信頼感を強めることができた。

- ・また、開示された東京都の市に対するアドバイスは、重要な論点について当会の意見と一致するもので、心強かった。
- ・適切な都市計画変更の実現に向けて、具体的で包括的な提案書を作成中で間もなく完成する見込みである。この問題の最終解決に向っていきたい。
- ・そのほか、武蔵野プレイスの地下にある28台分の駐車場についても、いつも1～2台しか駐車しておらず、無駄なので、他の用途への転換を以前から検討していたが、いずれ東京都の動きをみて意見を皆で検討したい。

6. 子ども食堂の報告 (竹山)

- ・NPO法人ワーカーズどんぐりという組織がある。傘下の“みかづき子ども食堂”では現在、新型コロナ対応で子ども食堂の運営が停止しているため、利用者や生活困窮者対応のフードドライブを行っており、各種余剰食材の提供や情報発信をお願いしたい。
- ・また、アベノマスクをほどいて使いやすい布マスクに再生する取り組みも行っているため、不要なアベノマスクをお持ちの方はご寄付いただきたい。

7. 次回の古民家ウォッチングについて (山田)

- ・11月に予定していた“古民家ウォッチング@西荻周辺”については、新型コロナ問題が継続しているため、とりあえず来春に延期したい。

8. Web利用の会議開催について

- ・Zoom等を利用した遠隔会議について、役員会議で試行的に取り組む。

9. その他

- ・暮らしフェスタについては、今年は通常の一般公開はできなかったが、展示用のパネルを作成して市役所で公開することになった。パネルの作成は村井氏が担当。

次回は11月13日(金) 19:00～

(ご不要なアベノマスクがあれば持参してください。)